

第 16 回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー in 神戸
特に反響の大きかった実践発表へのコメントの一部をご紹介します！

※掲載は発表部門順になります。

□ **地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ（兵庫県）**

部 門	【第 1 部門】私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア（初級編）
発表タイトル	苦痛・不快感のない排便、緩下剤 0 宣言！
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 水分摂取困難な方が多く居るので、どうしているのか疑問に思いましたが、水分だけでなくゼリーや寒天等を使って水分量を増やしていると聞いて試していこうと思いました。 ❖ 自分の施設も排便コントロールを行っていますが、便を促す方法がマンネリ化してきてしまい方法も尽きてしまいそうだったので今回の発表をみてとても参考になりました。方法も様々で元からやっていたものもありますが、バリエーションを増やすなど（味など）考えてもいなかったもので、施設に持ち帰りすぐにでも実践したいと感じました。 ❖ 下剤を使用した排便コントロールが主流になっているので、自分の施設でも取り入れたいと思いました。

□ **特別養護老人ホーム 一本松荘（熊本県）**

部 門	【第 1 部門】私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア（初級編）
発表タイトル	『お願い食べて!!』 ～命の強さとあきらめない私達～
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 同じような取り組みをしており、共感が持てました。食べるということがいかに大切か、ということ強く感じることができました。 ❖ 患者様に対する強い気持ちが伝わった。ひと口運動を通し状態が悪化していたところから回復に向かうまでその方にスタッフの皆さんの思いがしっかり向けられ、伝わっているのだと感じた。スタッフ間の連携の良さがわかった。 ❖ 食べるということと看取るということの相反する考えの中、あきらめない取り組みについて共感できたので。

□ **手稻溪仁会病院（北海道）**

部 門	【第 2 部門】一人ひとりへの 3 大介護のあり方とその工夫（基礎編）
発表タイトル	「どこまでも歩けると思うんだ」 ご本人のできる！を信じて待つこと
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ セラピストとしての姿勢が謙虚ですばらしいと思った。内容もわかりやすい。 ❖ 内容は胸にグッとくる部分も多く、「手を離すのを恐れているのは自分だった」という点では自分自身もそうになっているなあと考えた。同じ 20 代でこれからも頑張りたいと思う。 ❖ 「～してください」ではなく「～できそうですか」という声掛けは真似しようと思う。相手に寄り添う姿勢がよかった。

□ 介護老人保健施設 わかな（長野県）

部 門	【第3部門】“食”の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし
発表タイトル	最期までその方らしい食事を目指して ～こだわりのムース食～
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ ペースト食だけではなく、ムース職にこだわっていることがよくわかりました。彩りもきれいで、とても勉強になりました。 ❖ ムース食が気になっていたから。器がきれい。 ❖ 食事を1回1回大切に、個々に合った食事を提供できるように考えていく姿勢に私の施設でも取り組みたいと思いました。またよりよい食事をといろいろな工夫をされているようで刺激を受けました。 ❖ 利用者様に最後までおいしい食事を食べてほしいという思いがすてきでした。ムース食という食形態を作ることを選択肢を作ることができるというのは、利用者さまもうれしいと思います。

□ 特別養護老人ホーム 神の園（京都府）

部 門	【第6部門】認知症の方とのコミュニケーションの工夫
発表タイトル	3秒 ～大切な時間～
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 3秒という時間、短いようで簡単ようで全然できていなかったことを感じました。少しでもご利用者との時間を大切にすることで見えてくる部分がたくさんあると知りました。 ❖ 実際に“待つ”ということをやってみていてわかりやすかった。 ❖ 待つことの大切さに改めて気づけた。業務や介護技術の向上だけでは足りない、さらにその上を考える時期に来ていると感じた。 ❖ わかりやすい内容でした。具体的な取り組みについて真似がしたいとおもった。

□ 地域密着型老人保健施設 クレール高森（和歌山県）

部 門	【第7部門】ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと
発表タイトル	暮らしの中で家族と共に看取る
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 家族の想いを汲み取り、説明し、納得していただき、ケアをされていたのが印象的でした。湯かんも初めてとのことで、実践されていたことがすごいと思いました。 ❖ 利用者や家族のことをよく考えておられるなと思いました。また、死後のケアも丁寧だなと思いました。 ❖ 同じようなケースの方がいるため、家族の心境を考え大事にしたいと思った。できることを家族の思いを汲み取りながら取り組んでいきたい。 ❖ いろいろな考えの家族様がいる中で家族のニーズ本人のニーズにできる限り寄り添った援助を行っていたことが印象深かった。家族とともにケアを行えることがすごくうらやましかったです。

□ 特別養護老人ホーム 神の園（京都府）

部 門	【第7部門】ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと
発表タイトル	怖いから始まったターミナルケア
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 自分も2年前からターミナルケアを経験するようになり、始まりは恐怖でいっぱいだった。少しずつ変化しつつある気持ちが重くなりました。 ❖ 新任職員の看取りに対する不安感が伝わりベテランでは感じないものがわかった。今後の指導の参考となりました。 ❖ 何度体験しても慣れることのできない入居者の方との別れやターミナルでの対応。不安ながらも自分たちでどのようにしていこうか考えて取り組んでいたことがすごいと思いました。「入居されたその日からあなたへのターミナルケアを始める」という言葉が印象に残りました。

□ 高齢者総合福祉施設 ^あ愛しや（兵庫県）

部 門	【第10部門】スタッフの育成、工夫したこと、苦労したこと
発表タイトル	リーダーの在り方 ～超変革！～
聴講者からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ❖ チームケアをするにあたってのリーダーの役割の大切さがわかった。いろんな人がいる中で、人材育成はそれぞれにあったものと考えていかなければと参考になった。 ❖ ユニットの活動計画を作るイメージをしていたので参考になった。現場の声を聞きながらマニュアルを作るということも自分の施設の取り組みに生かすことができる。 ❖ 私もユニットリーダーをしていますので、どうしてもすべての業務はリーダーがやらなければならないと考えてしまい時に大変さを感じることも。しかし、発表を聞いて部下に業務を任せることも必要だと思い、また次のユニットリーダーを育てるのもリーダーの役目だと感じました。